

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-142	23-061	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Associations between maternal periconceptional alcohol consumption and risk of omphalocele among offspring, National Birth Defects Prevention Study, 1997-2011 母親の妊娠期間中のアルコール摂取と出生児の臍ヘルニアリスクとの関連：米国出生異常予防研究 (1997-2011)		
執筆者		
Fisher SC, Romitti PA, Tracy M, Howley MM, Jabs EW, Browne ML.		
掲載誌		
Prev Med. 2024 Mar;180:107891. doi: 10.1016/j.ypmed.2024.107891.		
キーワード	PMID	
アルコール、 出生時異常、 臍ヘルニア、 妊娠、 バイアス	38342385	
要 旨		
<p>背景：妊娠中のアルコール摂取と脳梗塞に関する先行研究では、一貫した結果が得られていない。National Birth Defects Prevention Study (NBDPS) データで以前に行った解析について、6年間の参加者を追加の上再度行い、母親のアルコール摂取と臍ヘルニアとの関連を検討した。</p> <p>方法：NBDPSは米国における多施設、集団ベースの症例対照研究である。症例は10州の先天異常サーベイランスプログラムから同定され、対照は、症例と同じ居住地域から無作為に抽出した先天異常のない生児であった。母親は、受胎可能期間（妊娠1ヵ月前から妊娠3ヵ月まで）のアルコール摂取を電話インタビューで調査した。本研究では、1997～2011年に分娩予定日（EDD）があった410例の臍ヘルニア症例と11,219例の対照群の母親を対象とした。ロジスティック回帰を用いて、受胎可能期間中のアルコール摂取と臍ヘルニアの調整オッズ比（AOR）と95%信頼区間（CI）を推定した。確率的バイアス分析を行い、アルコール曝露の誤分類が結果に及ぼす影響を評価した。</p> <p>結果：全体として、症例の44%および対照の38%の母親が妊娠期間中のアルコール摂取を報告し、それぞれ22%および17%が大量飲酒であった。母親の妊娠期間中のアルコール摂取は、臍ヘルニアのオッズを増加させ（AOR 1.35、95%CI 1.09、1.68）、危険な多量飲酒（AOR 1.47、95%CI 1.08、2.01）であっても同様であった。確率的バイアス解析においては、さらに臍ヘルニアとの関連がない方向での結果であった。</p> <p>結論：母親の受胎可能期間でのアルコール摂取と臍ヘルニアの間には緩やかな関連がみられた。バイアス解析に基づくと、曝露の誤分類を考慮していないアルコールと先天異常に関する研究は、関連を過小評価する可能性がある。</p>		